平成２４年度第２回大和市文化財保護審議会会議　会議録

会議名 （審議会等の名称）		平成２４年度第２回文化財保護審議会
開催日時		平成２５年３月２９日（金曜日）１４時～１６時
開催場所		大和市役所５階委員会室
出席状況	委員	５人
	その他	０人
	事務局	文化スポーツ部長、文化振興課長、市史・文化財担当１名（計３人） 文化スポーツ部文化振興課市史・文化財担当　内線（５２２５）
	傍聴人数	０人
公開・非公開の状況		■公開　　□非公開　　□一部非公開
非公開・一部非公開の場合はその理由		
審議又は検討経過及び結果		**（１）会議次第** １、平成２４年度指定管理業務実施状況調査（郷土民家園）※現地視察 ２、その他 **（２）審議及び結果** 主な内容は次のとおり **１、平成２４年度指定管理業務実施状況調査（郷土民家園）** 指定管理者職員（公益財団法人　スポーツ・よか・みどり財団）から事業の説明。 現地での質問や意見は次のとおり ・入館者数が減少してきているようだが、天候などの影響が大きいのか。 ⇒郷土民家園だけではなく、泉の森公園全体の来園者数が減少しており、はっきりとした原因は分かっていない。引き続き原因究明に努めていく。 ・どんな施設でも年数が経つにつれて、人々が慣れてきてしまうということもあり、入館者の減少という課題に直面する。新たな事業を行うなど、新しい魅力を提示していく必要がある。 ・泉の森公園内で骨董市などを開催してはどうか。骨董市とあわせて泉の森の散策もできるので、人気が出ると思う。ゆくゆくは実行委員会を設置すれば、運営は全て任せられるし、場所の使用料を徴収することも可能になる。やり方は色々あると思うので、検討していただきたい。 ・東洋ランなど渋好みのコレクターを対象とした展示などを行ってもよいかもしれない。 ・伊豆稲取地方の風習である吊るし雛が最近ブームになっているので、展示するのもよいかもしれない。 ⇒現在民家園では、寄贈していただいた７段飾りの雛人形を展示している。吊るし雛の展示についても検討していきたい。

	・各イベント参加者のリピーター率はどのくらいか。 ⇒イベントの際に実施しているアンケートを見ると、３分の１から半数程度の方が民家園に複数回以上来たことがあるという回答をしている。来園者の新規開拓が課題となっている。 ・学校の施設見学について、中学校の生徒が見学に来ることはあまりないのか。 ⇒中学校の見学はない。自然観察センターに職場体験として数名の中学生が来た際に、郷土民家園の仕事を手伝ってもらう事はある。 ・小学校と中学・高校では視点や説明方法なども変わるので、見学に来るよう PR してもよいかもしれない。 ・見学に来る団体の平均人数（一団体あたり）はどのくらいか。 ⇒団体によってまちまちである。ウォーキングなどの団体は 100~200 名程度の規模のところが多い（事前連絡はないことが多い）。事前連絡をもらっている団体は小規模であることが多く、職員による説明や来園者のサポート（車椅子対応など）を希望しているところが多い。 ・市外からの来園者が多いように感じるが、どのような要因が考えられるか。（交通の便が良いなど） ⇒郷土民家園側から市外の小学校へ特別に PR をしているわけではない。5 月や 10 月～11 月頃の遠足シーズンの来園が多く、泉の森へ遠足で訪れた際に民家園にも来園しているのではないかと思われる。泉の森公園内にあるという立地条件が来園者数に大きく影響している。 ・植物のネームプレートの表記が統一されていない。「カワヅザクラ」以外の木には「サクラ」「モミジ」としか書いていないので、正式名称で統一した方がよいと思う。ラテン語の標記についても統一されていないので、見直す必要がある。また、「カワヅザクラ」のプレートの位置が木とずれていたので、確認して欲しい。 ・団体見学実績を見ると、相模原市からの見学があまりないように見受けられる。相模原市の範囲は広く長いが、市の範囲と生活圏とは異なるので、相模原市南部の市民には訪れやすい場所である。来園者の少ない地域に PR していけば、来園者数の増加はまだ見込めるのではないか。